

お手伝い大作戦！！

～居場所のある生活を作るために～

多機能型グループホーム鷹栖なごみの家

洋ユニットリーダー 菅原 景子

ケアスタッフ 坂原 有紀

取り組みのきっかけ

- 平成25年12月より入居されたN様は、まだ入居して日が浅いこともあり、なごみの家に自分の居場所を見いだせず、不安があり帰りたいと感じておられることが多かった。
- 本人はできることも多く、意欲もあるので、それを活かして役割を得ることで、自分の居場所を実感するとともに、スタッフや他入居者と交流するきっかけになればと考えたため。

対象者

N. Y様（86歳）女性 要介護3

○平成15年認知症発症

○趣味・特技

貼り絵、生け花

○生活歴

幼少期より大家族で、姉妹で
家事を手伝うことが当たり前
だった

実家は農家であった



入居までの流れ

- H25年10月20日 申し込みを受ける
- 申し込み理由：主介護者の長男（脳梗塞の後遺症にて片麻痺）が同年8月に腰を痛めて、介護が難しくなった
- お嫁様は就労しており、主に介護はできない状況
- H25年12月5日 入居の意思が確認できる
- H25年12月9日 自宅訪問にてアセスメント行う
- H25年12月16日 入居

入居にあたり重視したこと

- ・ 入居前はデイケアとSSを利用していた
- ・ ご本人は鷹栖になじみがない
 - リロケーションダメージを最小限にする

そのために・・・

家具、寝具などご本人の部屋に最大限近づける

デイケアで作っていた作品も自室の壁に貼っていたようにレイアウトして頂くよう初回面接で話し合いを行った



マズローの五段階欲求説



・・・あるべき自分になりたい！

・・・自分を認めてほしい！

・・・グループの中にいたい！

・・・安全でありたい！

・・・衣食住を満たしたい！

取り組み内容

- お手伝い表の作成
- お手伝いの内容
- 家族・スタッフとのかかわり

お手伝い表の作成

N 様

	午前	午後
茶碗拭き		
タオルたたみ		
洗濯物たたみ		
洗濯物干し		

いつもありがとうございます



- 時間帯と内容で分けた表を作成
- 毎日食堂に貼り出し、お手伝いしたところに印鑑を押して頂く。

お手伝いの内容

- 茶碗拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の盛りつけ・配膳、裁縫、おやつ作り、ゴミ集め、生け花、掃除、忘年会用の席札作り、新聞たたみ、ゴミ袋の名前書き、鬼退治(!?)
- お手伝いして頂いている間は一人にせず、他入居者やスタッフが一緒に行くか、時々様子を見て声をかける。
．．．．．他者との交流を大切にするため

家族・スタッフとのかかわり

- 就寝前、お手伝い表の下部にスタッフが一言メッセージを記入し、居室に置いたファイルに綴る。
- 入居後 帰宅の希望が聞かれた際は、
“なごみの家に引っ越しされた”ということを伝え、
居室を見て頂くことで統一する。
- 週に一回ご家族へ電話し、状況を伝える。
- 意欲的にお手伝いされているところを写真にとり、家族へ送る。

取り組みの様子



取り組みの結果

- N様の変化
- 他入居者の変化
- スタッフの変化



N様の変化

「帰りたい」という気持ちに
変わりはない。

お手伝いをしている間は集中
されており、楽しそうな様
子。

他入居者との会話も増えてき
た。



他入居者の変化

※なごみの家の日常
～10年前



平均要介護度 2. 6

※なごみの家の日常
～現在



平均要介護度 3. 6

以前はお手伝いに積極的ではなかった方が「手伝うよ」と意欲的になり始めている。

他の入居者も、仕事をしているN様に「頑張ってるね」、「ありがとう」などと声をかけて下さるようになった。



スタッフの変化

以前は作業効率や安全性を考え、間接業務の多くはスタッフが行っていた。

今では「手伝ってもらおう」という意識が強くなり、入居者と一緒に作業することが増えた。





まとめと今後の展望

介護度が上がり、安全性や作業効率を考慮して、間接業務はスタッフが行うことが続いていた。

取り組みを通して・・・

「N様にはこれができるかもしれない！」と考えるようになった。

N様に限らず他の入居者にも可能性があるので、持っている力を見つけ、活かしていきたい。

近い将来、スタッフと入居者が一緒に生活を楽しめるように・・・。

心豊かな毎日を・・・！！



ご清聴ありがとうございました！！